# 理研会報

発行
印教研　理科研究部
事務局
成田市幸町948-1
成田小学校内


## なを一層のご協力を

部長　穴澤　鉦治

理科という教科はどうも先生方にきらわれて困る。

ひとつ、今後は、実験をやっている授業を見たら無条件でほめようではないか。ほめ方の研究をしようじゃないか。

昭和二十三年に初めて理科研究部に入った頃はこんな事を言われたことを思い出します。

夏の暑い最中、アイスキャンデーをしゃぶりながら書いた「ローカルプラン」時代。

理服法の台帳に頭をひねった時代。今のように立派な先生方が整った教育条件の中で、すばらしい学習指導をしていられるなどは当時は夢にも考えられない時代でした。

想い出多い数々の先輩が教職を去られて行かれてしまいました。

そして、今回、はからずも私如き者が部長の大任を与えられたのであります。

立派な先輩、個性豊かな先輩等々を思いうかべる時、私如き非力な者が伝統と名誉ある研究部を充分に運営していけるかどうか心配でなりません。

幸いに、副部長に、中村欽哉氏、飛田吉男氏、幹事に、本山正一氏、佐藤幸納氏を迎えてあります。

私が非力でもこれらの人々は何れも有能な士であります。さらに各部会には、それぞれの地域のエキスパートが部長をしておられ、理事会は熟練した人で構成しておりますので、各位の指導助言を得て、なんとか名を汚さないように努力いたす所存であります。研究部員各位におかれましても、よろしくご協力の程をお願い申し上げます。

今年度は、当研究部の事業として特筆すべきことは、千教研の理科教育研究発表大会が、十一月に四街道小中を会場にもたれることであります。他の支会が立派に運営されていることを自分の目で今までに何回も見てまいりました。他が出来る事が印象が出来ない筈がありません。理科部の総力を挙げて是非成功させたいものであると考えております。

教研、工夫展、理科センター、研究学校協力、理研会報発行等々研究部の先生方一人一人がご協力をいただかなければならないことは山積しております。

さらに、指導要領の改訂に伴う新しい学習指導の展開も目前に迫っております。

会員各位のご健勝、ご活躍を祈念するとともに、ご支持とご協力をお願い申し上げます。

### 本年度の主な行事計画

一、理科作品展の開催
　期日　十月二十二日（土）
　内容　児童生徒の科学工夫工作及び論文、標本
　　ただし標本は部展どまり

二、教研活動
　期日　十月
　内容　各部会を中心として研究をすすめて提案する。

三、研究学校への協力
　印教連指定研究学校、白井第一小学校
　研究テーマ「ひとりあるきのできる理科学習の成立をはかるにはどうしたらよいか」
　（52・53年度指定）

四、理科実験器具展示会の開催
　期日　十月四日（火）
　理科教材教作材料費関係も展示する予定。

五、理研会報の発刊
　みなさんからの原稿をお待ちしております。

六、千教研理科研究発表大会
　期日　十一月二十五日（金）
　会場　四街道小・中学校

### 本年度の新役員

顧問　飯田　和幸（山武所長）
部長　穴沢　鉦治（白井一小）
副部長　中村　欽哉（久住一小）
〃　飛田　吉男（実住小）
理事　坂橋　義夫（成田小）
〃　藤崎　正雄（宗像小）
〃　柏熊　寿（富里小）
〃　折目　嘉雄（草深小）
〃　手塚　重夫（北辺田小）
〃　古谷　弘（根郷小）
〃　五味　健（酒々井小）
〃　因泥　幹夫（南部中）
一部会部長　岩本　国市（千代田中）
二〃　湯浅　潔（成田中）
三〃　牧野　隆（印西中）
四〃　林　譲雄（八街中央中）
幹事　本山　正一（志津中）
〃　佐藤　幸納（成田小）

会報の原稿は佐藤幹事までおとどけ下さい。

## バトンを渡して

前研究部長　藤崎　正雄

飯田前研究部長より重責をまかされたのが今から二年前でありました。

その責任の重大さと、はたして未熟な自分がこの大役をやりとげることができるかどうか自問自答悩みぬきましたが研究部の先生方あるいは先輩の先生方のご指導とご協力により、どうにかその任を果し終えたことを深く感謝いたしております。

任期中とくに印象深く残っておりますのは教研集会での活動であります。発表される内容に日頃の研究の成果の裏付けのあったことです。それに各部会の研究部長を中心としての組織的研究活動は他に類をみることないものとして自負しております。

また、児童生徒の理科作品展におきましても、各理科主任を中心として「理科の好きな子ども」をつくりあげた成果がみられたことであります。年々出品する点数の多さと、その内容のよさであります。

昨年度は県理科作品展において二点も特別賞に輝いたのも、各学校、各教室での理科学習の充実を物語っているといっても過言ではないと思います。

研究部といたしましても、先生方に何かお役にたてばと思い、昭和四十三年三月に出版いたしました「植物栽培の手引き」を、教科書と指導内容を考慮いたしまして「改訂版」を出版できたのも今思えばなつかしい一つとなりました。

それにしても、今年度は研究部にとって、なお一層の結束を必要とする。千教研理科研究発表大会を印旛支部で開催いたすことになっております。穴沢研究部長を中心に、この催しも成功裡に終るよう先生方のご協力をお願いしたいと存じます。これからも研究部のますますの発展を願って私の挨拶といたします。ありがとうございました。

## ざれごと

印西中　今井　和彦

このごろ、学校や社会生活の中で平均的な人間が多くなっている。そういう人間が期待されているせいかもしれない。生徒を例にあげると、かっては生徒の中に必ずといってよいくらい理科の得意なA君、電気のことならB君、植物のことならCさん、天文のことならD君というように得意な生徒が何人かはいた。彼等の多くは他の教科や分野は決して良くはないが、級友に認められ、自分も自信をもって学校生活を送っていた。最近このような生徒が少なくなったように思われる。そうでなければいいのだが。それも、ゆとりのない生活のせいであろう。すさまのない学校生活、テレビに多くの時間を費す家庭生活を改めることが必要であろう。それとともに学校や家庭で、生徒の遊びや作業などを通して探究的な態度を育てる努力をしていったらどうだろう。たとえば、草花の種まきや植付では、土を耕やすのはなぜ、肥料をやるのはなぜ、水をやるのはなぜ、道具の使い方など考えさせたり、理由づけたりして、探究的な態度を育てていきたいものである。

## あとがき

○まもなく夏休み。子どもたちにひとつのテーマにじっくりとりくませたいものです。